

1 研究主題

「だれとでも進んでかかわり合おうとする児童の育成」 ～ 英語活動を通して～

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

社会の情報化が急速に進展する中で、社会のあらゆる場面においてコミュニケーション能力の向上が求められている。人は、多くの人とのかかわり合いを通して、互いに学び合ったり、共感し合ったりして、自らを高めていく機会を得ている。互いにかかわり合うことを繰り返す中で、相手を理解し合い、尊重し合うようになることは、健全な社会生活を営む上で大切なことである。これは、人と人のかかわり合いが、よりよく「生きる力」として、重要視されていることの証でもある。

また、国際化が進む現代社会では、外国人や外国の文化とふれあう機会も増しており、より一層高いコミュニケーション能力が求められるようになってきた。

コミュニケーション能力を高めることが、自らがかわり合う人の輪を広げるとともに、さらに多くの人と進んでかわり合おうとする意欲をも生み出すものと考えた。

(2) 本校の教育目標から

本校では、今年度から新たに「確かな力をもち 心豊かで たくましく生きる児童の育成」という教育目標を定め、様々な教育活動を通じてその具現化に取り組んでいる。

英語活動という、母語とは異なる言語環境に身を置く中で、相手の言葉に心を傾けて聞くことや互いに目を合わせて思いを伝えたり感じたりしようとすることは、豊かな心をはぐくむことにつながるものと考えた。また、家族や友達、教師など、児童にとって身近な存在はもとより、地域に住む人々も含めて様々な人と進んでかわり合おうとする心を培うことにより、進んで自分の意志を伝えようとするたくましさを育成することにつながるものと考えた。

(3) 児童の実態から

一般的に学習意欲の高い児童が多く、新しい知識の習得を喜び、難しい課題に対しても解決できるまで粘り強く取り組む姿が多く見られる。その一方で、自分の意見を進んで発表したり、お互いに議論したりすることに消極的な児童も見られ、より多くの人と進んでかわり合おうとする力をはぐくむことの必要性が感じられた。

昨年度からの取組を通じて、児童が英語活動についてどう感じているのか、自分自身にどのような変化があると感じているのかを全校児童を対象にアンケートによる調査を行った。（*資料参照）その結果によれば、発達段階の違いはあるものの、各学年とも共通して、英語を使って行われる様々なゲームを楽しんで活動している児童が多く、英語を話すことや異学年と交流することに楽しさを感じる児童も増えている。また、英語活動を通じて「進んであいさつができるようになった」、「新しい友だちが増えた」など、自らの心情の変化や成長を実感している児童が増えていることも分かった。

このような調査結果から、英語活動を通じてコミュニケーション能力の基礎を培うことが、進んで人とかわり合おうとする児童をはぐくむ上で有効な手だての一つになっていると考えられる。

一方では、児童が、できるようになったと実感している「進んであいさつができる。」を例に見てみると、確かに学校内では、元気よくあいさつが交わされる様子が増えるなど、進んでかわり合おうとする姿勢に広がりが見られるようになってきている。しかし、教師の立場から日常を観察した実感としては、まだまだ英語活動を始めた学校内の設定された環境の後押しが必要であると考えられる。進んで人とかわり合おうとする姿勢は、少しずつ広がりを見せつつあるが、さらに一歩進めさせたいところである。そこで、本研究主題のもと、「進んで人とかわり合おうとする児童の育成」を目指した取組を継続していくことが必要であると考えた。

(4) 平成 19 年度の成果と課題を踏まえて

本校では、様々な人々とコミュニケーションをとろうとする意欲を高める手だてとして「英語活動」に取り組んできた。英語嫌いにしないということに留意しながら、様々な活動を楽しむことを大切にしたい授業づくりや、忘れたら質問することもコミュニケーションであると考え、「覚えることを主目的としない授業づくり」を共通の土台として取り組んできた。本年度は、以下の成果と課題を踏まえて継続して研究を推進していく。

< 成果 >

一つ一つの活動を楽しみながらコミュニケーション能力を高めることを目指すという、共通理解の基に全員で取り組むことができた。

HRT が、各単元の授業計画を作成できるようになってきた。

「聴く」、「話す」...等、ねらいを明確に持ち、活動を構成していくことの大切さが分かった。その中でも特に「聴く」活動を充実させることがコミュニケーションの基礎として重要であることを実感した。

< 課題 >

授業計画作成にあたって、これまでの実践を振り返り、各学年の言語材料を再確認し、無理なく取り組むことができるよう、内容を吟味していく必要がある。

クラスルームイングリッシュに取り組む意識をさらに高めていく必要がある。

児童が、進んでかかわり合おうとする意欲を喚起する形成的評価について、考えていく必要がある。

平成 20 年 3 月に告示された「新学習指導要領における外国語活動」においては、「高学年で年間 35 時間の実施」が提唱されている。年間時数の面では本校の実践と異なるが、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度（言語、表情、ジェスチャー等）の育成を図ることを目的としており、目指す方向に違いはないと考える。平成 23 年度の完全実施を見据えて、今後の英語活動の進め方について検討していきたい。

3 めざす児童像

コミュニケーション能力の基礎を身に付け、進んで人とかかわり合おうとする児童。

コミュニケーション能力の基礎を次のように押さえた。

聴こうとする態度	・耳、目、心を傾け、注意深く相手の話を聴こうする
話そうとする態度	・どのように伝えれば良く伝わるかを考えながら、進んで話そうとする
相手を尊重する態度	・アイコンタクトや表情、身振りなどで相手を尊重する気持ちを表そうとする。

4 研究のねらい

コミュニケーション能力の基礎を培い、「だれとでも進んでかかわり合おう」とする児童をはぐくむ英語活動はどうあればよいかを授業実践を通じて検証する。

5 研究の視点

(1) 「かかわり合う」場面設定を重視した単元構成の工夫

(2) 「聴く・話す・かかわる」活動を大切にしたい 1 単位時間の授業展開の工夫

6 研究に当たって

(1) 進んでかわり合おうとする児童をはぐくむ手だてとしての英語活動

- ・ コミュニケーション能力の育成を目指す場合、各教科・道徳、日常のあらゆる場面を通じた幅広い取組が必要であることは言うまでもない。本研究では、その中から、児童に対して行った意識調査の結果などから有効と考えられる、英語活動を手だてとして研究を進めていきたい。

(2) 英語活動についての基本的な考え

- ・ 語学教育として、英語の言語能力育成をめざすのではなく、英語活動を通じて「コミュニケーション能力の基礎」を身に付け、誰とでもかわり合おうとする意欲を高めることを目指した取組である。
- ・ 相手の伝えようとしていることに耳と目と心を傾け、言語はもちろん、表情やジェスチャーなども含めて相手を理解しようとする態度、相手にしっかりと伝えるために、どうすればよいかを考えて表現しようとする意欲を培う手だてとして英語活動を活用する。
- ・ 母語とは異なる言語環境に身を置く中で、英語を「聴く・話す」活動や、英語を使って「歌・ゲーム・ダンス」などで表現する活動を楽しみ、様々な人々（友達、教師、ALT、異学年 等）とかわり合おうとする楽しさを感じられるような取組を目指す。教師も児童も楽しめる英語活動を工夫していく。
- ・ ショートタイムやクラスルームイングリッシュの取組を通じて、英語が自然に耳に入るように努める。忘れたり、分からなくなったりしたときは、気軽に質問できる学習環境の醸成に努める。
- ・ 3年生以上は、総合的な学習の時間の中、1・2年生は、特設時間として計画する。

(3) 学年に応じた「かわり合い」と「英語活動」の目標

学年部	「かわり合い」	「英語活動」
低学年	「出会い」 ・目を合わせて人にあいさつしようとする。	「英語との出会い」 ・歌、踊り、読み聞かせなどを通じて英語との出会いを楽しもうとしている。
中学年	「ふれあい」 ・相手に対して自分の気持ちや考えを伝えようとする。	「コミュニケーションに親しむ」 ・英語に親しみ 進んで話しかけようとしている。
高学年	「かわり合い」 ・相手の伝えようとするをしっかりと聴き、気持ちや考えを問いかけたり、答えたりしようとする。	「コミュニケーションを楽しむ」 ・英語を使った表現に親しみ、進んで交流しようとしている。

(4) 具体的な英語活動への取組

取り組む活動	具体的な内容
学級担任が計画する英語活動	
ロングタイム（年間 10回） ・1単元3～4時間で構成 ・ALTとHRTのTTで実施	聴く、話す、かわり合う。 ・チャンツ、歌、ダンス、各種ゲームなど ・楽しむ活動の中に「かわり合う」場面を挿入する。
ショートタイム ・毎週水曜日(朝15分間 年間35回) ・HRTが単独で実施	ショートタイムの3つの柱 <英語を使って楽しむ活動> ・歌、ダンス、各種ゲーム... <交流活動> ・異学年や同学年内で一緒に習った英語を使ってみる。 <ロングタイムの振り返り> ・新出、あるいは既習の単語や構文について、ロングタイムと同じゲーム等の活動を通じて繰り返す。


カリキュラムの検討	
20年度版カリキュラムの作成と修正 平成23年度を見据えた準備	19年度版の各学年の言語材料を再確認し、誰もが無理なく実践できる内容を目指す。 高学年カリキュラムの35時間化への対応と低・中学年部の取り組み方の方向性を確認する。
評価の検討	
評価観点の検討	児童の意欲を喚起する賞賛や支援など、 <i>3E-ループ</i> の評価について実践の中で検証する。
クラスルームイングリッシュの実践	
ガイドラインの作成と実践	学級担任が、英語を話す大人のモデルとして進んで発話してみせることで、児童が英語を発話しやすい学習環境をつくる。
英語活動を支援する環境整備	
教材整備の推進 英語研修の機会設定	市販教材購入と自主制作 資料収集及び活用方法の研修 教材研究・ALT打合せの日程確保 研修会の設定と講師招聘 等

7 研究の経過と計画（16～19年度の経過と20年度の計画）

年度	月	研究の経過と今後の計画
16		・上杉山中学校 ALT による英語活動（各学年とも年間2～3回程度実施）
17	8	・東北学院大学文学部英文科との連携（1年生 年間3回） ・小学校 ALT（Edward Robledo）配属 隔週3日で英語活動開始（各学年とも月1回・含朝の英語活動）
18	4 8 9 12 1 2	・英語活動を研究推進委員会で取り上げ、今後の取り組みについて検討開始。 ・小学校英語教育アドバイザー（Edward Robledo）配属 ・毎週2日（木・金）英語活動の継続的实施（各学年とも3週間に1回程度） ・朝の英語活動（週1回）実施開始 ・小中連携 相互に授業参観 1・HRTのプランで授業研究実施 第1回（6年生） 2・小中連携 上杉山中英語科教諭とALT（Nicolas Pandi）が6年生に授業 ・HRTのプランで授業研究実施 第2回（4年生） ・国立教育政策研究所「英語活動に関する意識調査」実施（4年生） ・文部科学省 教育課程教科調査官 菅 正隆氏 来校（助言と講話） ・英語活動研修会 『小学校英語活動にどのように取り組むか...』 講師：教科指導員 坪沼小 遠藤 恵利子 先生
19	4	・研究の方向性の吟味。英語活動の授業に向けた校内研修 ・英語活動研修会 『英語活動の進め方・授業を作るときに大切にしていること』 講師：ALT ... Edward Robledo 先生(4/13)

- 5 ・ HRT が主となり，年間計画（加付）作成開始
- ・ ショートタイム（毎週水曜日・朝の英語活動），
- ・ 3 週間に 1 回のロングタイム（1～5 年 Edward Robledo，6 年 Nicolas Pandi）
- 6 ・ 第 1 回 研究授業 4 年生「ポイントカードを集めよう」（4/25）
- ・ 第 2 回 研究授業 2 年生「How many ～ 」と英語活動研修会
助言と講話：坪沼小 教科指導員 遠藤 恵利子 先生(5/31)

7/5 自主公開研究会（1 年次）

・ 公開授業	< ショートタイム > 学級担任だけで実施する 15 分間の英語活動 全学年 全クラス	
・ 公開授業	< ロングタイム > 学級担任と ALT が TT で実施する英語活動 3 - 1 ... My Family 家族を紹介しよう 6 - 4 ... What time do you ?	
・ 全体会	< 研究協議 > ・ 研究概要説明 ・ 質疑応答 ・ 講演 演題 『小学校英語活動の現状と課題』 講師 松山大学大学院言語コミュニケーション科 教授 金森 強 先生	

- 8 ・ 英語活動研修 『英語活動スキルアップ研修会（実技）』
講師：教科指導員 坪沼小... 遠藤 恵利子 先生(8/23)

- ・ 英語活動研修 『絵本の取り上げ方，指導計画の作成...』
講師：教科指導員 坪沼小... 遠藤 恵利子 先生(11/ 22)
- 9 ・ 第 3 回 研究授業 1 年生「Brown Bear Brown Bear What do you see?」（11/29）

- ・ 国立教育政策研究所 英語活動調査の実施（2 年次）
- 1 2 ・ 第 4 回 研究授業
5 年生「身の回りのものを知ろう・Stationery」（12/14）
杉の子：映像による話題提供



- ・ 研究集録の作成
- 1 ・ 実践の集録に基づいて年間加付の構想を確認
- ・ 国立教育政策研究所 英語活動調査の実施と調査・報告書の提出
- ・ 研究全体会（2/19）... 1 年目のまとめ 今年度の成果と次年度への課題を確認
- 3 ・ 英語活動研修 『クラスルームイングリッシュへの取り組み...』（2/29）
講師：宮城教育大学 英語研究科准教授 佐々木 ゆり先生

- 2 0 4 ・ 英語活動研修 『指導計画を作成するために』
講師：Edward Robledo 先生(4/17)

・研究授業

4	第1回	4/17	4 - 3	Can you ~? 校内研究		
5	第2回	5/29	3 - 1	My Family 家族を紹介しよう 助言：仙台市教育センター 指導主事 行場啓悦 先生		
6	第3回	6/26	2 - 2	Let's Enjoy The Party I want ice cream. 助言：教科指導員 坪沼小 遠藤恵利子 先生		
	第4回	7/4	6 - 3	身近な英語を使ってゲームをしよう What color card do you have ? 助言：仙台市教育センター 指導主事 行場啓悦 先生		

7/10

自主公開研究会（2年次）

・公開授業	<ショートタイム> 学級担任だけで実施する15分間の英語活動 全学年 全クラス
・公開授業	<ロングタイム> 学級担任とALTがTTで実施する英語活動 2年... Let's Enjoy The Party Fruits & Snacks 6年... What color card do you have ?
・全体会	<研究協議> テーマ『これからの小学校外国語活動がめざすもの ～平成23年度に向けて～』 ・研究概要説明 ・質疑応答 ・指導講話 講師：明海大学名誉教授 和田 稔 先生

8 ・英語活動の充実に向けた校内研修(外部講師を招聘予定)
『新学習指導要領に基づく英語活動のカリキュラム作成について』(仮)

9 ・第5回 研究授業(11/)1年生
・第6回 研究授業(12/)5年生
1 2 ・国立教育政策研究所 英語活動調査の実施(3年次)

1 ・2年間のまとめ 今後の英語活動に向けた計画作り
年間35時間のカリキュラム検討(新学習指導要領 高学年外国語活動カリキュラム)
1～4年生の英語活動について23年度を見据えた方向性の確認
・研究集録の作成
・国立教育政策研究所 英語活動調査・報告書の提出
3 ・研究全体会(2/9)
次年度に向けて

8 研究の体制

